

エコ運転に独自の仕組み

ロジックスライン

都貨物輸送
評価制度 5年連続で星取得

【千葉】ロジックスライン(沢田秀明社長、千葉県成田市)は、2020年度東京都貨物輸送評価制度において5年連続で評価され、「最優秀事業者」として認定を受けた。初めての申請から三つ星4回、準三つ星1回を取得。全従業員の日頃からのエコドライブやアイドリング・ストップへの意識が奏功した。

同社ではグリーン・エコプロジェクト(GEP)に参加する以前から、独自に燃費計算に努めるなど取り組みを行ってきた。当時は、加藤政就統括次長がセミナーなどに積極的に参加して勉強を重ね、エコドライブに関する独自の仕組みを構築した。その後、15年3月からGEPに参加し、16年から貨物輸送評価制度への申請を始め、初年度から評価を受けている。



加藤氏は「地場配送でストップアンドゴーが多く、航空貨物は待機時間が長くアイドリングしがちな環境にある。燃費を向上させにくい中で三つ星を取得できたのは、安全への意識が根底にある」と話す。

意識付けに向け、ドライバーとのコミュニケーションを重視。加藤氏は1カ月の燃費データとドライバーのコメントに対して一つひ

とつ確認と返事を徹底している。一定水準で全ドライバーがエコドライブに励んでいることから、現在では目標設定なども設けておらず、今後もこれまで同様の取り組みを継続させていく方針だ。

加藤氏は5年連続して星を取得できたことについて、「取り組み始めた当初からの燃費計算におけるマネジメントを確立できていたため」と振り返る。その上で、「長年の取り組みが『やるのが当たり前』という共通認識をつくり出している。管理者が適当な対応をすればドライバーも適

当になる。思いが無ければ相手は応えてくれず、安全と燃費の数字は意識で変わる」と強調する。

(井内亨)

最優秀事業者認定書と評価証明書を手にする加藤統括次長